

参考資料 3

国際的動向を踏まえたオープン
サイエンスの推進に関する検討会
(第5回)
平成30年6月20日(水)

CoreTrustSeal (CTS) について

- 2017年9月、ICSU-WDSとDSAはCoreTrustSeal (CTS: コアトラストシール: データリポジトリの認証機関) を設立。データリポジトリ関係者の代表等によって管理・運営されているコミュニティベースの非営利組織(NPO)。
- CTSによるデータリポジトリの認証は、人文・社会科学分野の背景をもつDSAと自然科学系の各分野の活動が中心であったICSU-WDSの両者が連携することで、より中核的な要件を見出す取組みとして立ち上げられたもの。
- CTSはWDSとDSAの評価基準を比較し中核的な要件を抽出することで、より簡潔なDSAの項目をベースに、「ミッション/視野」、「データの完全性・信頼性」、「技術的な基盤」等の16項目に及ぶ要件を作成。
- 各々の項目を「0-適用不可 (Not applicable)」から「4-実装済 (The guideline has been fully implemented in the repository)」の5段階で評価。
- 全体を通じた評価基準としては、DSAの基準で要件とされていた、①データの発見可能性、②データのアクセス性、③データの再利用可能性、④データの信頼性、⑤データの参照可能性の5点が踏襲されている。

(参考) World Data System (WDS) について

- WDSは、品質管理された科学データの長期的な保全と提供によって、ICSUが推進する科学研究事業を支援することを主目的とした団体であり、データリポジトリに係る評価・認証基準を持つ。
- 2008年のICSU第29回総会で創設が決定し、国際プログラムオフィスはNICT(情報通信研究機構)がホスト。

(参考) Data Seal of Approval (DSA) について

- DSAは、データが長期的に発見、理解及び利用されることを目的として、オランダを中心とした国際的な委員会のメンバーによって管理されている基準であり、単に団体名としても用いられる。

注: 本資料は、「E1888 - 信頼できるデータリポジトリの中核的な統一要件, 南山泰之, カレントアウェアネス-E, No. 320 2017. 02. 23.」等を参考に内閣府が作成したもの。